

教宣 せぶん

ただただ感謝

「2週間総行動」を通して、多くの仲間の方々から連帯と、そして激励のご挨拶を頂きました。東京海上日勤経営の「暴拳」への鋭い批判を聞き、私たちのたたかいへの共感やご支援の言葉を頂戴し、このたたかいが一步一步確実に前進しているという実感を手にすることができました。また、黙って、当たり前のように、座り込んで頂いたり、ビールを配って頂いたり、旗を持って立って頂いた多くの働く仲間の姿を目の当たりにし、ただただ頭が下がる思いをしました。この誌面を通して、多くの仲間の方々から心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

そのなかで、「私が日勤外勤支部のたたかいを応援するのは、私が日勤外勤支部の方たちから応援してもらったからです」という方がいました。また、「その昔、俺たちのたたかいでも当時の日勤外勤支部がよく集まってくれたんだ」と話してくれる全損保OBの方もいらっしゃいました。働く仲間のたたかいを応援、支援した年代に、古い、新しいはあるにせよ、私たちの先輩や同僚が行った「支援」に対して、恩返しのつもりで、いま私たちのたたかいを「支援」してくれている方が数多くいらっしゃいました。「情けは人のためならず」ではありませんが、先輩たちの「善行」が、廻りめぐって私たちに返ってきていると思います。

こんな事実を目の当たりにすると、言わずもがなではありますが、あらためて全損保日勤外勤支部の継承者は私たちだと声を大にして言いたくなります。「社員制度を残すためには全損保から脱退するしかない」と言って、全損保日勤外勤支部を「発展的に解消した」と称する者たちに、「昔、支援されたから君たちの運動を支援しよう」という人は誰もいないでしょう。「あの時助けてもらったから」と恩返しを買って出る人はいないでしょう。そんな観点から見ても、全損保という組織から出て行ったのが誰で、誰が全損保という組織に残り、全損保日勤外勤支部を継承したのか、その実態・全体像を正確に把握できるのではないのでしょうか。

「社員制度を残すためには全損保から脱退するしかない」と言って多くの仲間を扇動していった者たちは、きっと「2週間総行動」をいぶかしい目で見たのでしょう。「2週間総行動」に全損保の全損保らしさを感じ、仲間の行動参加にただただ「感謝の念」を抱いた私たちと、どちらが、全損保日勤外勤支部が、有史以来蓄えてきた闘争資金を使う権利があるのでしょうか？